

平田市の遺跡Ⅱ

2003年

平田市教育委員会

目 次

1 飯山1号墳.....	1
出雲市芸術文化振興課 川上 稔	
平田市教育委員会 生涯学習課 原 俊二	
2 平田城跡.....	9
出雲市芸術文化振興課 川上 稔	
平田市教育委員会 生涯学習課 原 俊二	

1 飯山 いい やま 1号墳

1 調査にいたる経緯

昭和60年度に、農林水産省中国四国農政局中海千拓事務所により国営中海千拓事業斐伊川左岸用水路事業に伴う檜山配水槽設置工事が平田市東郷町836-1番地外で計画された。

当時、平田市教育委員会社会教育課には専門職員が配置されていなかったため、県文化課から西尾克己氏の派遣をうけ6月20日に分布調査を実施した。

調査により古墳状の高まりが3カ所見つかり、また、同一丘陵上で奈良末～平安時代の須恵器を表採した。

その後、試掘調査を出雲市教育委員会の川上稔が実施し、古墳は1基のみであることが

判明した。

本調査は、7月18日から25日まで川上稔が再度実施した。

2 位置と環境

平田市街地の北側の低丘陵上に所在する。北山山地から南に派生する低丘陵の先端にある。現在は丘陵の南側に沿って船川が東流し、穴道湖に注いでいるが、古代においては丘陵下まで穴道湖が広がっていたと考えられる。(註1)

現在、同一丘陵上には前方後円墳、前方方墳、方墳の3基で構成される浜古墳群(船廻古墳群)が知られているのみである。(註2)(第1図)



第1図 位置図 ($S = 1/10000$)

3 調査概要

墳丘

標高 5.3 m 付近に構築されている。墳丘の上部は大きく崩れていたが、墳裾の傾斜変換線がわずかに確認できた。地山の直上に旧表土（黒褐色粘質土）があり、その上に盛土をほどこし、墳丘を作っていた。周溝は存在せず、盛土の範囲を墳丘とすれば南北込 7.7 m、東西込 6.4 m、現在高 1 m の方墳と考えられる。（第 3・4 図）

主体部

墳丘上部の流出が激しいため、主体部は全く存在しなかった。

出土品

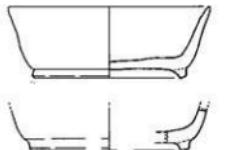
古墳にともなうものは確認されていない。なお、古墳の西側墳裾外から、中期後半の弥生土器甕の胸部小片が出土した。

4 まとめ

調査の結果、飯山 1 号墳は 7.7 m × 6.4 m の方墳と考えられる。主体部は失われており、さらに、古墳に伴う出土品が無いため、時期を特定することは出来なかった。

しかし、同一丘陵上にある浜古墳群（船廻古墳群）が丘陵先端に位置し、飯山 1 号墳は丘陵の最高地点に立地することから、浜古墳群（船廻古墳群）に先行する古墳とも考えられる。

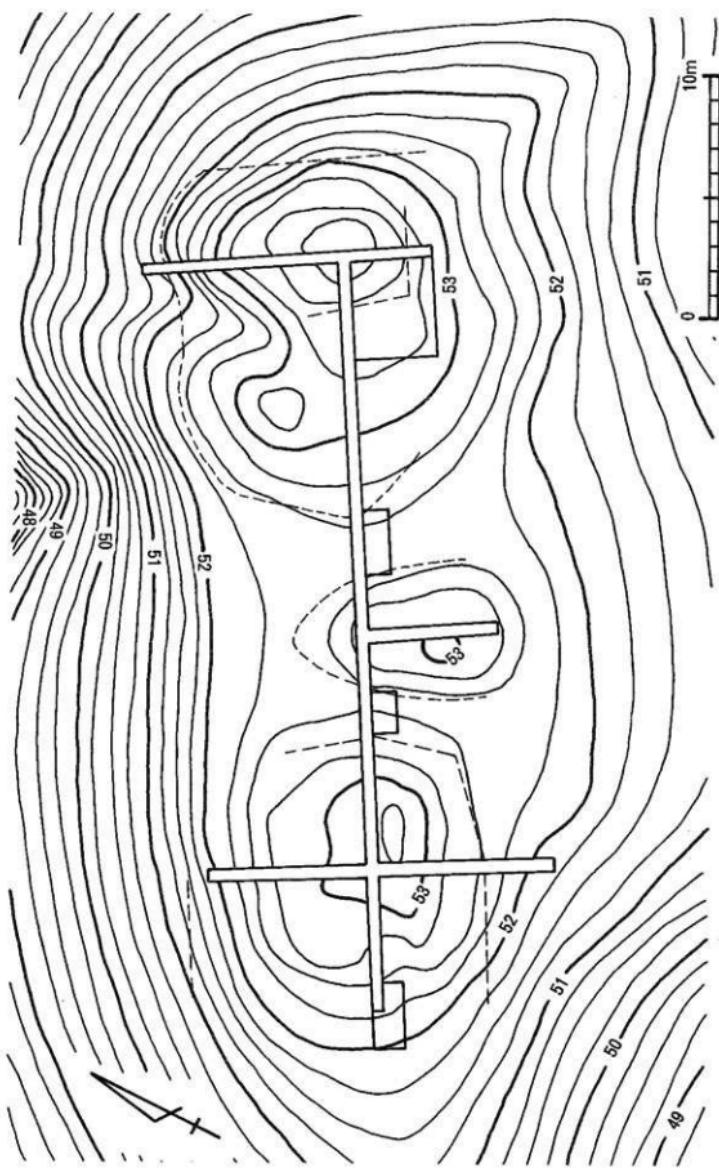
なお、弥生土器や奈良時代末から平安時代の須恵器（註 3）（第 2 図）が発見されているので、今後、この時期の遺跡が発見されることを期待したい。



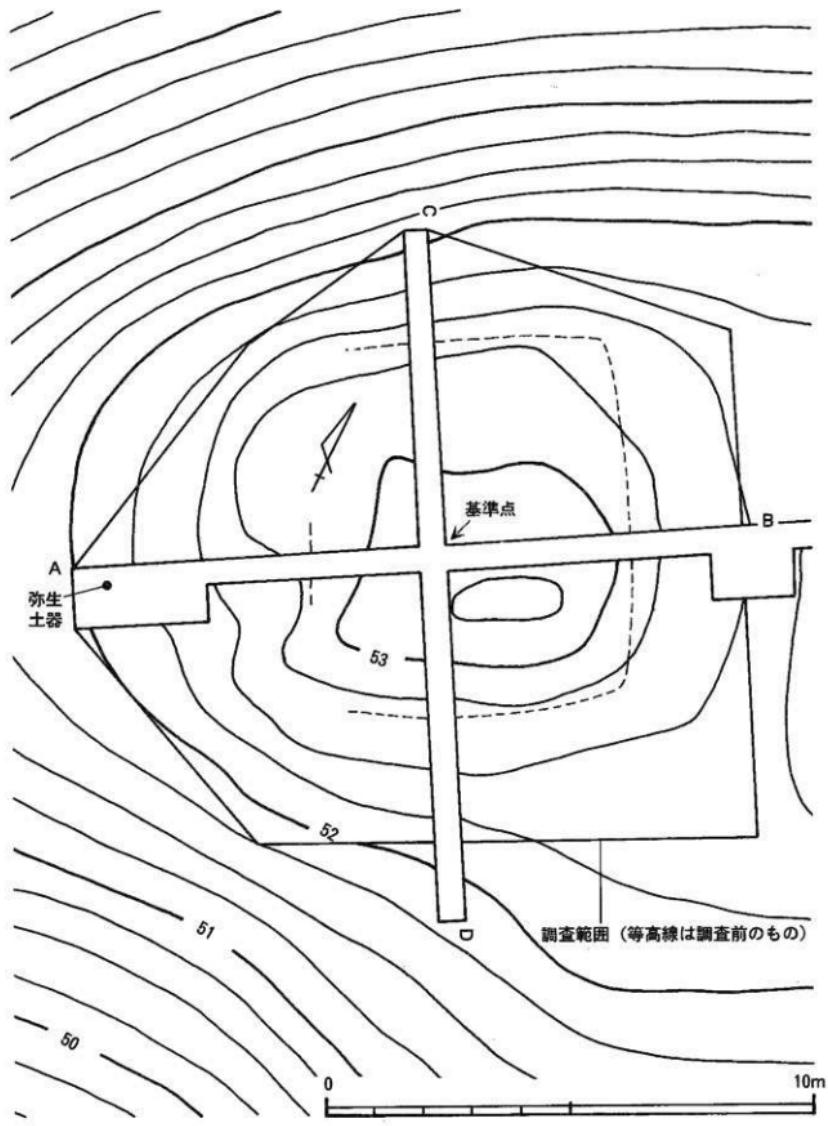
第 2 図 須恵器実測図 (S = 1/3)

註

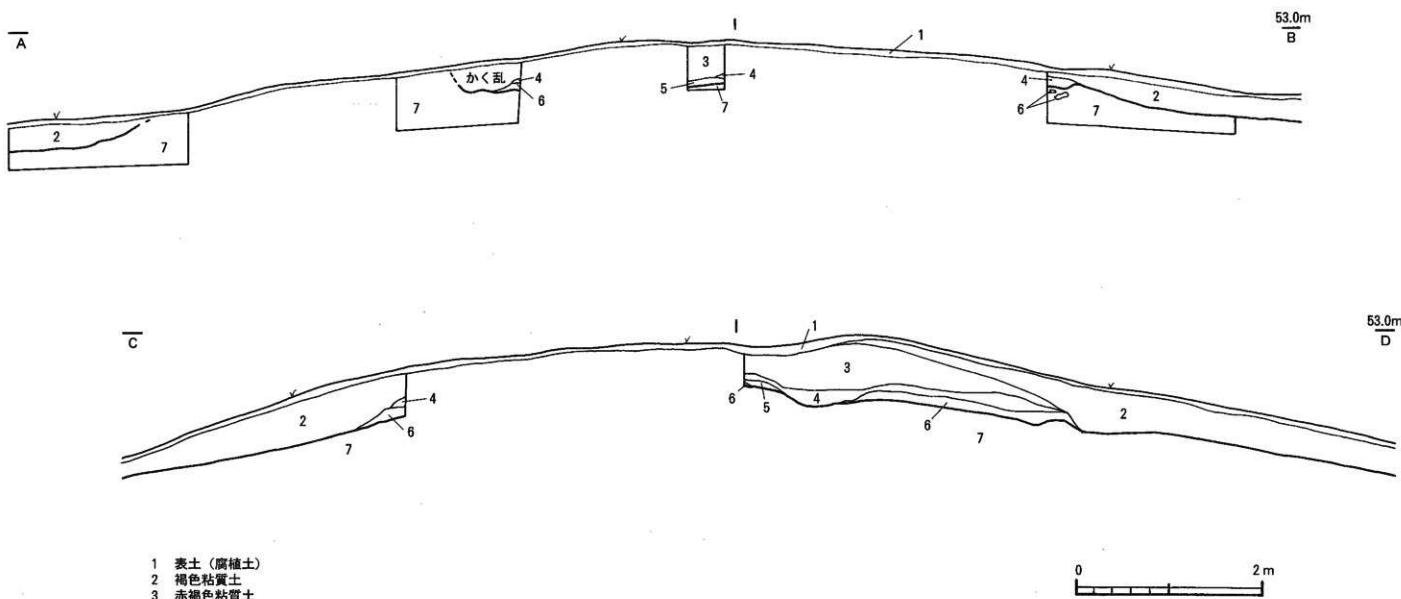
- 1 加藤義成『修訂出雲國風土記參究』改訂 3 版 松江今井書店 1981 年
- 2 穴道正年『久多美の昔話』1981 年
近藤義郎編集『前方後円墳集成』補遺編
山川出版社 2000 年
- 3 2 片表探しており、いずれも高台付きの壺である。第 2 図の 1 は、口径 12.5 cm、高さ 4.5 cm を測る。底部の外縁に低い高台がつく。調整は、体部の外縁は回転ナデ、内面の底は不整方向のナデ、底部はヘラ切りである。2 は、底部の外縁に低い高台がつく。調整は、内外面ともに回転ナデで、底部はヘラ切りである。



第3図 調査前の地形測量図・トレンチ配置図 ($S = 1/200$)



第4図 1号墳填丘図 ($S = 1/100$)



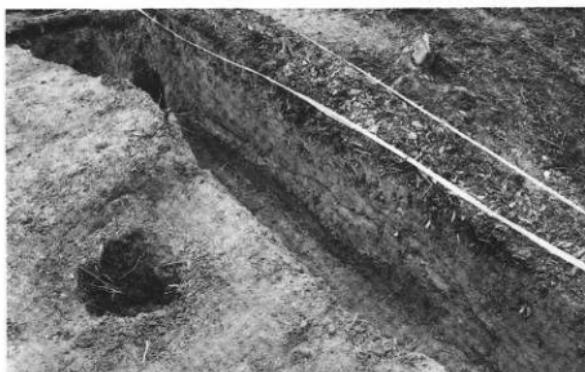
- 1 表土（腐植土）
- 2 褐色粘質土
- 3 赤褐色粘質土
- 4 灰白色粘質土
- 5 灰色粘質土
- 6 黑褐色粘質土（旧表土）
- 7 黄褐色粘質土（地山）

第5図 1号墳 墓丘セクション図 ($S=1/40$)





墳丘の土層



墳丘の土層



墳丘の土層

2 平田城跡

1 調査にいたる経緯

昭和61年に平田市開発課による愛宕山公園整備事業が計画された。

しかし、平田市教育委員会はこの計画を把握しておらず、8月20日に県文化課からの連絡で、周知の遺跡での開発計画であることがわかった。

その後、県文化課と協議を行い発掘調査を実施することになった。しかし、市教委には担当できる職員が配置されていなかったため、出雲市教育委員会の川上稔が調査をする事にした。

調査は9月12～17日までの予定で実施し、地形測量の後、あずまや建設部分を発掘

した。16日には県文化課の指導を受けた。

2 位置と環境

平田城跡は、平田市平田町字城の前6238-1番地外に所在する。平田市街の北側の標高約52mの丘陵上にあり、以前から公園として市民に親しまれている。

丘陵上からの眺望は優れ、東から南にかけては広く出雲平野を見渡すことが出来る。

東側の水田地帯は、中世には宍道湖であり、舟で平田に着いた、との記録も残っている。

(註) (第1図)



第1図 位置図 (S=1/10000)

3 調査概要

城跡の構造（第3図）

丘陵の最高所に主郭を置き、西側にのびる尾根を堀切で区画しながら、平坦面を作り出しており、2つの郭を有している。北側および東側は、以前から公園・神社・寺院などとして整備されているため、あまり明確ではないが、郭が配置されていたと考えられる。

今回は主郭、西一の郭、西二の郭の調査を行った。

主郭（第4図）

標高約5.2mの最高所に位置し、約2.2m×約1.5mの不定形な平坦面である。

あずまやの位置を発掘したが、表土の薄い腐植層を取り除くとすぐに地山の洪積層があらわれた。当該地では遺構及び遺物は、全く検出できなかった。西端に植えられている松の根の露出状況からみると、少なくとも0.5mは浸食をうけ土壌が流出していると推定される。

西一の郭（第5図）

標高約4.1mの地点に位置し、約2.0m×約1.0mの不定形な平坦面である。

主郭と同じく表面がかなり浸食をうけ、地山の洪積層が既に露出している。遺構としては径3.5cm、深さ1.0cmの浅いピットが1穴認められたが、伴出遺物がないため時期不明である。なお、ピットの少し南からは土師質土器の破片が1点出土している。

西二の郭（第6図）

標高約3.4mの地点に位置し、約1.2m×約1.2mの不定形な平坦面である。

部分的に調査したが、すぐに地山が露出した。

遺物（第2図）

土師質土器の皿が1点出土したのみである。底径は5.4cm、器高は不明で、内外面ともに赤褐色を呈する。全体に摩滅しているため調整は不明である。



第2図 土師質土器実測図 (S=1/3)

4まとめ

今回の調査によって、主郭から西に延びる尾根上で郭が2カ所見つかったが、出土品からは、この城の時期を特定できなかった。

古文書などによると当城は薬師城、手崎城とも言っていた。永禄5年(1562)に、毛利方が富田城を攻撃するための中継基地として利用しており、その後、尼子氏復興戦においても、尼子方が当城を攻撃しており、合戦の場となっている。

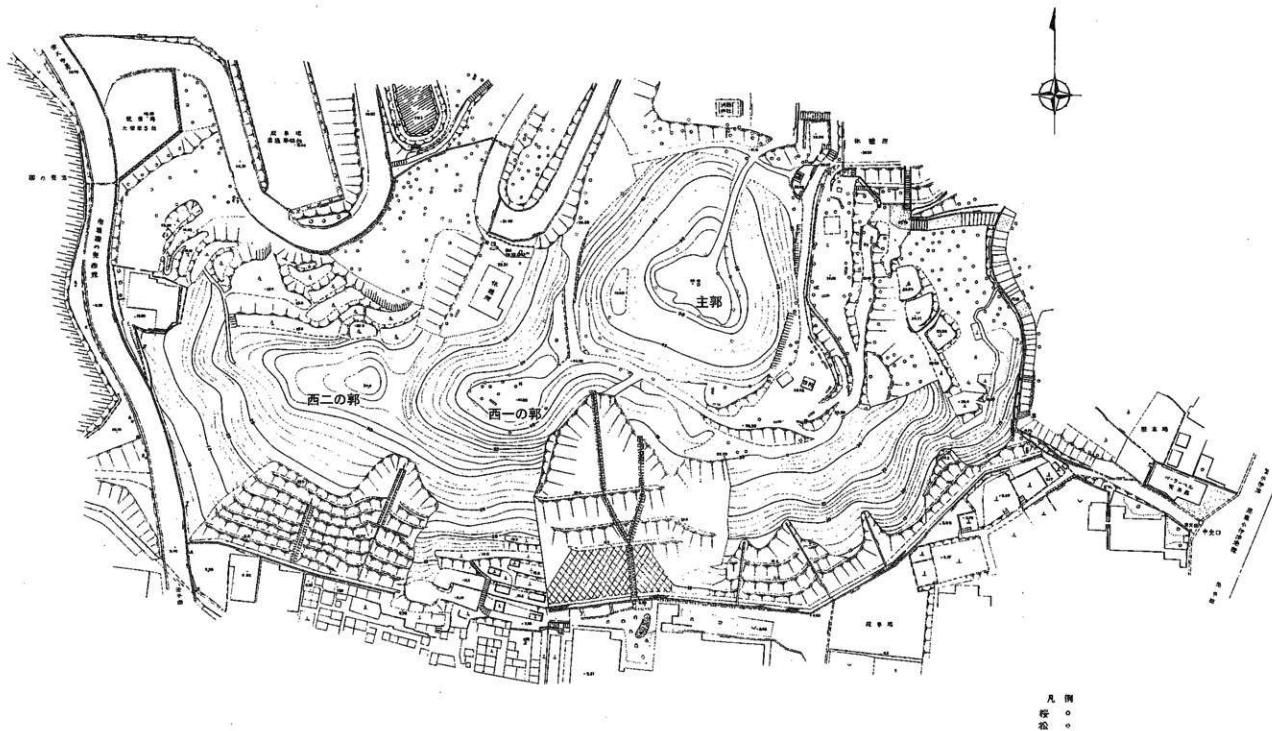
註

井上寛司 「中世の都市・平田」 『郷土史ひらた』 第2号 1991年 平田郷土史研究会
西陵 「平田城跡とその歴史」 『たてぬい』
第36号 1986 楠縫文庫・たてぬい児童文庫

山根正明 「桧ヶ山城の繩張りについて」 『平成2年度市民大学講座集録集』 1991年
平田市教育委員会

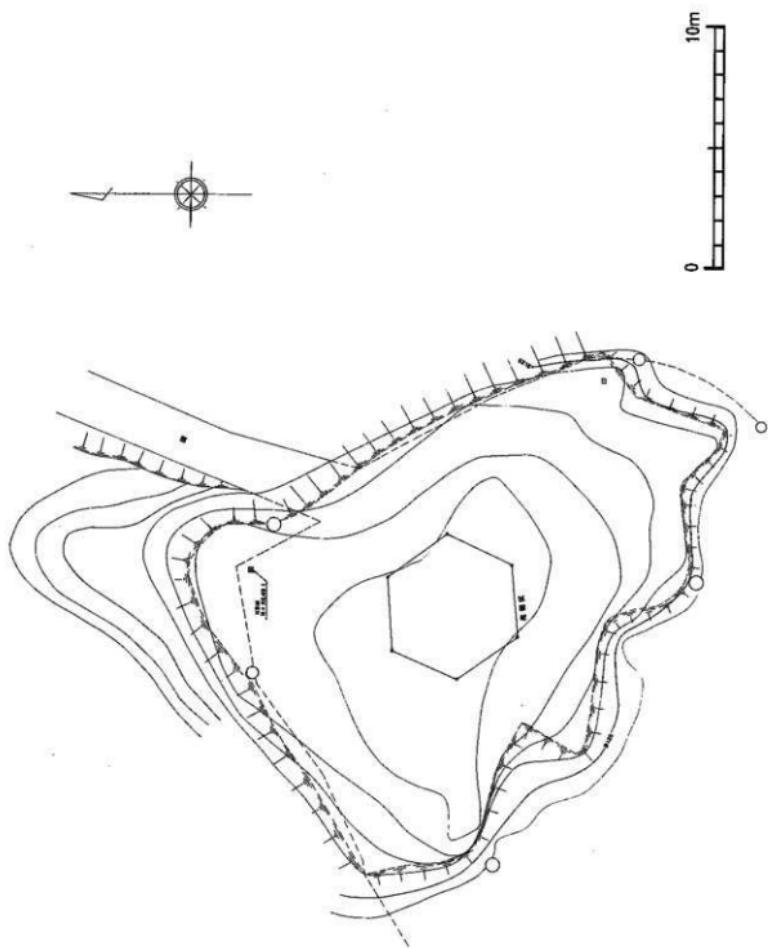
山根正明 「平田市の城館関係史料について」
『平成3年度市民大学講座事典歴史講座集録集』
1992 平田市教育委員会

島根県教育委員会 「平田城跡」・「城館関連史料一覧」 『出雲・隱岐の城館跡』 島根県中近世城館跡分布調査報告書 第2集 1998

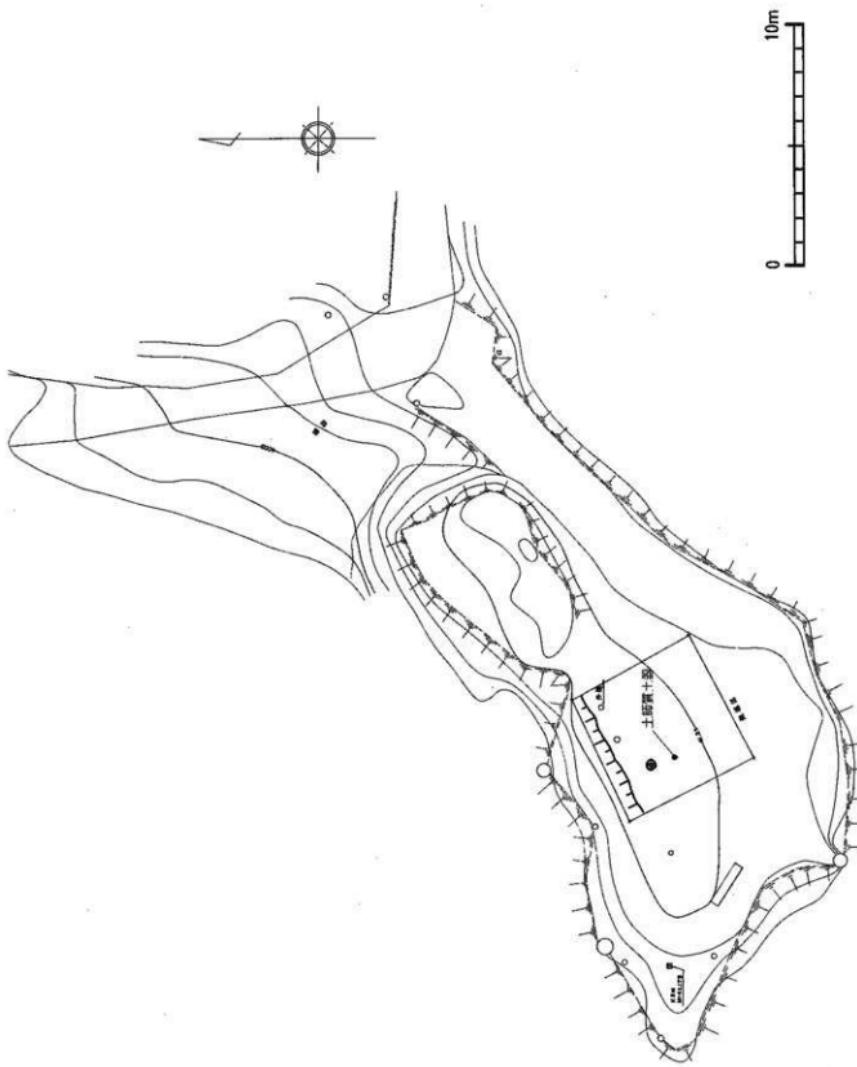


第3図 平面図 (S=1/1000)

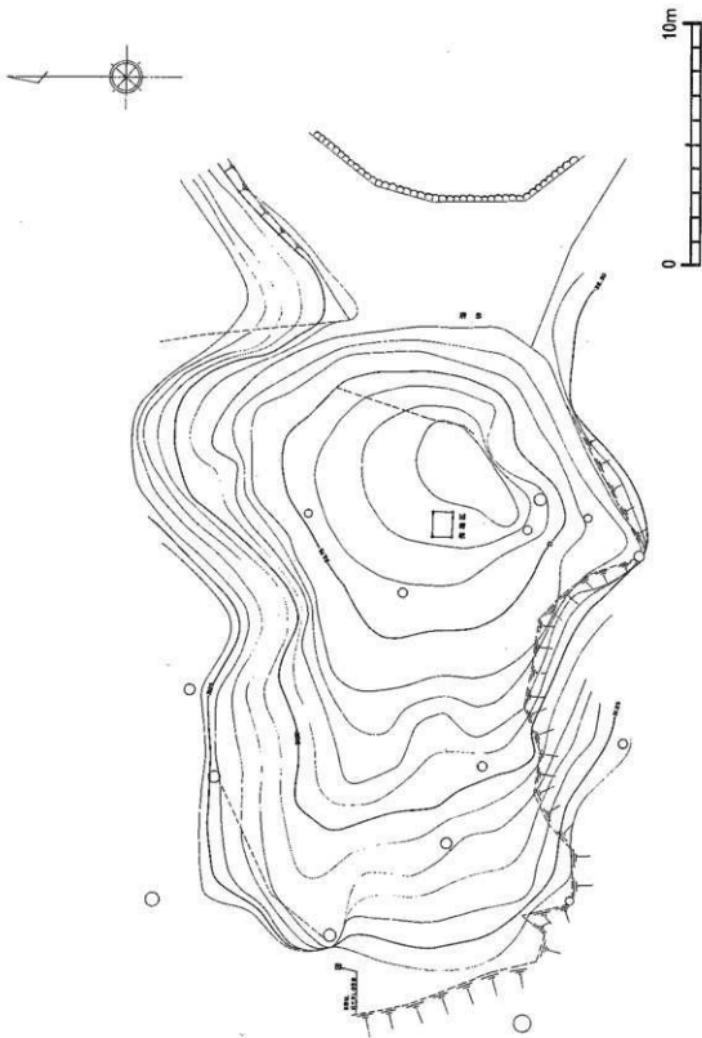
第4図 主郭平面図 ($S = 1/200$)



第5図 西一の郭平面図 ($S = 1/200$)

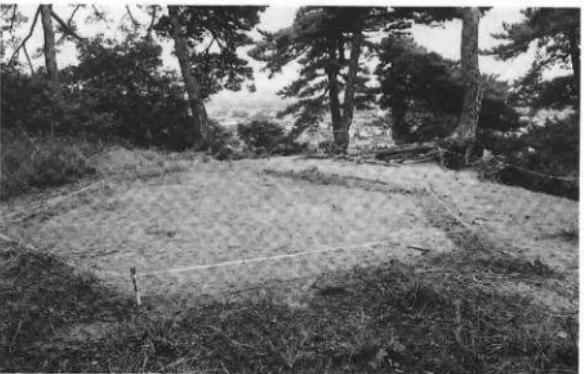


第6図 西二の郷平面図 ($S = 1/200$)





遠景



主郭



西一の郭



西一の郭



西一の郭



西二の郭

報告書抄録

ふりがな	ひらたしのいせき				
書名	平田市の遺跡II				
副書名					
シリーズ名	平田市埋蔵文化財調査報告書				
シリーズ番号	第10集				
編著者名	川上 稔 原 俊二				
編集機関	平田市教育委員会				
所在地	〒691-0001 島根県平田市平田町2791-1 TEL 0853-63-5574				
発行機関	平田市教育委員会				
発行年月	平成15年(2003)3月				
所収遺跡名	所在地	市町村コード	遺跡番号	調査面積	調査年月日
飯山1号墳	島根県平田市東郷町	32208			昭和60年
調査原因					
平田城跡	島根県平田市平田町	32208			昭和61年
調査原因					
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
飯山1号墳	古墳	古墳時代	主体部は消失		
平田城跡	城跡	中世	主郭、西一の郭、西二の郭	土師質土器	

平田市埋蔵文化財調査報告書 第10集

平田市の遺跡II

2003年3月

編集 島根県平田市教育委員会

発行 島根県平田市教育委員会

印刷所 株式会社 報光社